

科目名	犯罪学	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法学部	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Criminology	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	えびさわ すすむ	実務家教員担当科目	修得単位	2 単位
担当者名	海老澤 作	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	犯罪とは何か、犯罪は何故起きるのか（犯罪の原因論）。これらについての知識を習得する。			
到達目標	受講者は、本講義を履修することで、日本における犯罪情勢を理解し、ときに最新の知見を下に犯罪原因とその対策について説明することができるようになる。			
授業概要	<p>本講義は、犯罪白書なども用いて現代日本における犯罪情勢を理解するとともに、犯罪原因一般について学習する。その後、生物学的原因や、社会的原因等の具体的な犯罪原因についても学習する。なお、「犯罪心理学」については、別途独自の講義が設けられているため、本講義では取り扱わないことに注意すること。</p> <p>毎回、講義の終わり 10～15 分を使って、学んだ内容、コメントを書いてもらう。</p> <p>受講者の希望により外部の専門家に講演をお願いすることもある。</p>			
授業計画				
第 1 回	導入① 犯罪学とは何か			
第 2 回	導入② 統計データの紹介			
第 3 回	犯罪学の歴史① 初期の歴史			
第 4 回	犯罪学の歴史② 現代にかけての歴史			
第 5 回	生物学的条件と犯罪① 概説			
第 6 回	生物学的条件と犯罪② 年齢と犯罪			
第 7 回	生物学的条件と犯罪③ 性別と犯罪			
第 8 回	生物学的条件と犯罪④ 女性犯罪に特化して			
第 9 回	精神障害と犯罪① 精神病質			
第 10 回	精神障害と犯罪② 精神病質犯罪者の実態と手続き			
第 11 回	犯罪社会学① 20 世紀初期まで			
第 12 回	犯罪社会学② ラベリング論以降			
第 13 回	社会的条件と犯罪① 都市化、経済的条件			
第 14 回	社会的条件と犯罪② 学校教育、家族			
第 15 回	犯罪学の新しい動向			
第 16 回	定期試験			
授業時間外の学習	各回の講義で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと（予習：90 分） 講義時に紹介した資料について図書館、インターネット等を使って確認すること（復習：90 分）			
履修条件 受講のルール	教科書を読み進めつつ、適宜資料を提示するスタイルをとるため、毎回必ず教科書を持参すること 刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法の単位を修得済みであることが望ましい 履修者に求める受講態度については、初回の講義時に説明する			
テキスト	岩井宜子他『刑事政策【第 8 版】』（令和 7 年、尚学社） 最新の知見について、別途資料を配付することがある。その際は、原則ポータルサイトを通じて配付するため、講義前は常にポータルサイトを確認するようにしてほしい。			
参考文献・資料	法務省法務総合研究所編『令和 6 年版犯罪白書』（令和 7 年、日経印刷）			

	<p>紙媒体で販売されているが、法務省 HP に PDF 版が無料で公開されている。 国家公安委員会＝警察庁編『令和6年版警察白書』（令和6年、日経印刷） こちらも紙媒体で販売されているが、警察庁 HP に PDF 版等が無料で公開されている。 瀬川晃『犯罪学』（平成10年、成文堂） 岡本英生他『犯罪学リテラシー』（平成29年、法律文化社） ティム・ニューバーン（岡邊健監訳）『犯罪学』（令和3年、ニュートンプレス） ティム・ニューバーン（岡邊健監訳）『犯罪の科学』（令和4年、ニュートンプレス） 守山正＝渡邊泰洋編『ビギナーズ犯罪学[第3版]』（令和6年、成文堂） その他、講義時に紹介する。</p>
成績評価の方法	<p>期末試験60%、各回のコメントペーパー40% その他、講義時の質疑応答の内容により平常点を加えることもある。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜、水曜の14:40～16:10を設定しているが、研究室（海老澤研究室）に在室中は、いつでも来訪を歓迎する。 時には、講義で学んだこと以外についての疑問・意見提示、あるいは雑談をしたい際も、来室してかまわない。</p>
成績評価基準	<p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>内容によっては、これまで常識と思っていたものが誤りだったと気付くこともあるかもしれない。これを実感するために、常に新聞等で情報収集に努め、講義で学んだことと比較してほしい。</p>